

全人工膝関節形成術後患者の術後満足度調査

Postoperative patient satisfaction after total knee arthroplasty

池田 真琴¹⁾

湯朝 友基²⁾ 張 敬範²⁾ 江本 玄²⁾

1)江本ニーアンドスポーツクリニック リハビリテーション部

2)江本ニーアンドスポーツクリニック 整形外科

【はじめに】

全人工膝関節形成術（以下 TKA）は、除痛や機能回復に優れ安定した長期成績が望める手術である。しかし、術後の満足度は人工股関節と比べ低いと報告されており、満足度を上げるために人工関節のデザインの改良などがなされている。

近年、TKA 術後の満足度に影響を与える因子を調査した報告が散見されている。

今回、術後経過期間によって患者満足度にどのような違いが生じるのかを調査し検討を行った。

【対象・方法】

当院にて初回 TKA を施行し、2016 年 1 月から 8 月までに術後定期診察に来院し調査可能であった 225 例 285 膝、平均年齢 73.3 歳を対象とした。再置換例、二期的追加手術を施行した例は除外した。

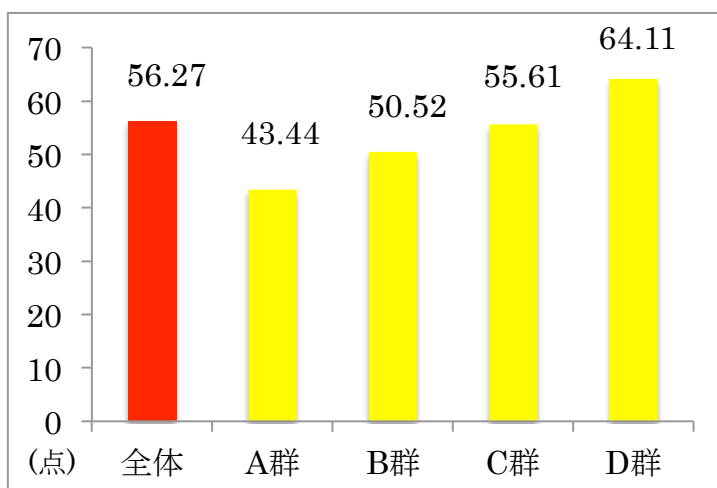
術後経過期間により、術後 3 カ月までを A 群、術後 4 カ月～1 年を B 群、術後 1～3 年を C 群、術後 3 年以上を D 群に分けた。

調査項目は、Forgotten Joint Score-12（以下 FJS-12）、膝関節可動域、疼痛（Visual analogue scale）、膝関節伸展筋力、階段昇降の実施状況とし、

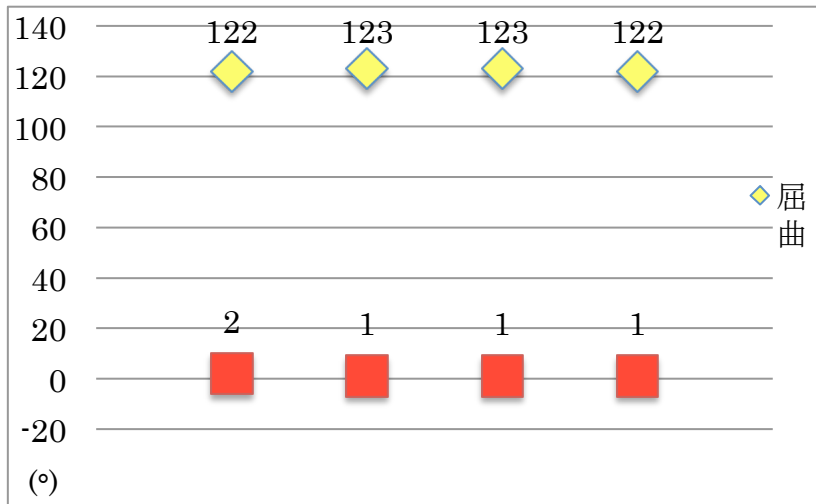
統計学的検討には、対応のない t 検定を用い、有意水準 5%未満としました。

【結果】

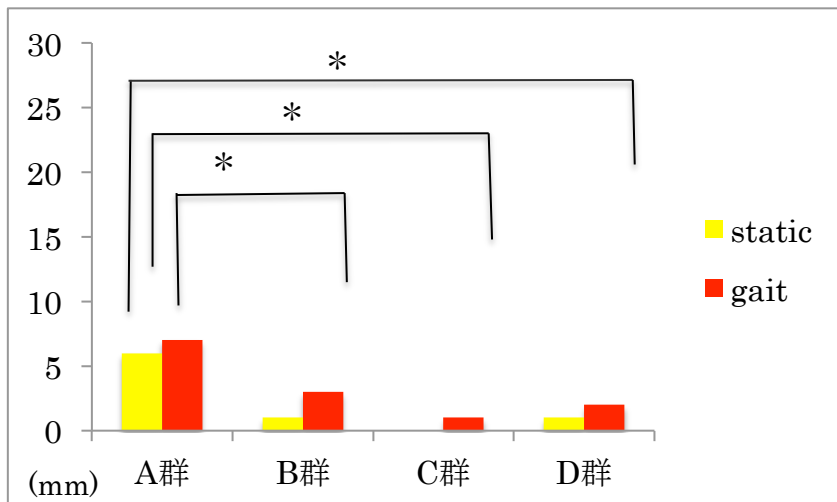
FJS-12 は、全体で 56.27 点であり、術後経過とともに FJS-12 の改善を認めた。A 群と C 群、A 群と D 群で有意差を認めた。



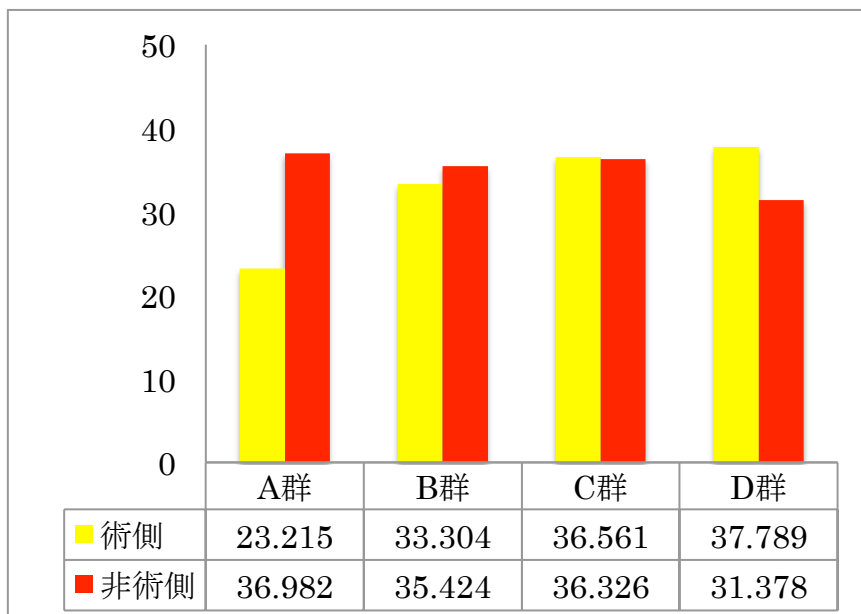
膝関節可動域は、術後経過期間において屈曲、伸展ともに有意差は認めなかった。



疼痛は、術後経過とともに軽減し A 群と B 群、A 群と C 群、A 群と D 群それぞれにおいて有意差を認めた。



膝関節伸展筋力は、術後経過に伴い、改善を認めたものの、有意差は認めなかった。



階段昇降実施状況

手すり使用は、A群で88.2%、B群78%、C群61%、D群72.2%と高い割合を示していた。

	1足1段 手すりなし	1足1段 手すりあり	2足1段 手すりなし	2足1段 手すりあり	手すり使用例
A群	11.8%	20.6%	0%	67.6%	88.2%
B群	16.0%	44.0%	6.0%	34.0%	78.0%
C群	37.0%	33.0%	2.0%	28.0%	61.0%
D群	21.1%	35.0%	6.2%	37.7%	72.2%

FJS-12の中で、階段昇降に関する部分の詳細では、

各群ともに気にしていると感じているケースが半数以上を示していた。

	全く気に していない	ほとんど気に していない	まれに気に している	時々気に している	たいてい気に している
A群	15.2%	12.1%	18.2%	12.1%	42.4%
B群	該当無	20.0%	15.5%	17.8%	46.7%
C群	12.0%	17.0%	20.0%	23.0%	28.0%
D群	25.3%	14.1%	18.2%	10.1%	32.3%

【考察】

TKA は、除痛、膝関節可動域や筋力、歩行能力の改善が認められる。

今回の結果からも、術後経過とともに明らかな除痛効果が得られ、身体機能の改善が図れていた。

Bourne RB et al

- ・膝関節機能において約 19%以上の TKA 患者が満足できていない
- ・同じ人工関節である人工股関節に比べると患者満足度は低いと指摘

(Clin Orthop 468:542-546,2010)

Emmanuel

- ・THA 術後の FJS-12 は 79 点であり、TKA 術後 73 点より高かった。

(British Editorial Society of Bone & Joint Surgery 2016;25 JAN)

今回、一番良かった D 群においても 64.1 点と人工股関節に比べ低い傾向であった。

山田ら

TKA 後の膝関節機能は、術後 3 ヶ月から 6 ヶ月で大きく改善する。

(理学療法学.2006,33:14-21.)

菊池ら

QOL は術後 1 年で著明に改善しピークとなる。

(東日本整災会誌・24 巻：188-191,2012 年)

FJS-12 において A 群と C 群、A 群と D 群において有意差を認めていることから、TKA 術後の満足度を獲得するには、術後 1 年という期間が必要となると考えられる。

また、階段昇降の実施状況に関して、FJS-12 では、全体で 71%が「気にしている」と答えている。しかし、D 群においては「気にしていない」と答えた例が他の群より多く存在しました。術後経過とともに運動機能が改善し、階段昇降を気にせずに実施可能になっているのではないかと考える。

【まとめ】

TKA 術後経過期間によって満足度に差が生じるのかを調査し検討した。

術後経過とともに FJS-12 の点数は改善を認めたが、人工股関節に比べ低値を示した。

患者満足度の改善には術後 1 年という期間が必要であることが示唆された。

今後は、個々の FJS-12 の術後経過の推移をみていきたいと考える。